



## 大規模施設整備事業の基本的な考え方について

本市において、今後控える4つ（新ごみ処理施設、新庁舎、学校施設等長寿命化、新し尿処理施設）の大規模施設整備を検討するにあたり、現在の財政状況を勘案した上で、昨年5月に策定した「財政構造改革骨太方針2024」の取組の一環として位置付け、施設整備・改修や維持管理に係る全体経費について、将来にわたる財政的負担を可能な限り軽減する整備スケジュール等を検討し、このほど大規模施設整備事業の基本的な考え方を取りまとめたところでございます。

主な検討結果でございますが、大規模施設整備の中で、市民生活への影響が大きいことや早期に整備を行うことで、現有施設のランニングコストなどで20億円を超える経費縮減が見込めるごみ処理施設を最も優先して進めることといたします。

次に、新庁舎整備につきましては、新ごみ処理施設の整備時期と調整するため、現計画から6年程度延伸することとし、その間に庁舎建設基金を総額30億円以上積立て、将来負担の軽減を図るものといたします。

次に、学校施設等については、長寿命化計画を基に、老朽化の著しい施設から順次改修を実施するとともに、併せて特別教室への空調設備設置について検討し、し尿処理施設については、施設の耐用年数を勘案し、新ごみ処理施設、新庁舎の整備が完了した後、整備を行うものといたします。

最後に、各事業の整備手法等については、少しでも事業費縮減を図るため、様々な方法の検討を進めていくことといたします。

今回お示しいたしました基本的な考え方は、現時点で各施設整備の事業化や実施スケジュールを決定したものではありません。事業を進めるに当たっては、本内容を踏まえ、今後、総合計画への反映を検討してまいりますものでございます。

なお、各事業の検討内容等については、資料をご参照ください。